

第3回防災講演会から

減災を目指すため「先手を打ち迎え撃つ」



体験談から熱弁をふるって頂いた阿比留さん

3回目を迎えた今年度の防災講演会は、福岡県西方沖地震で被災した福岡市・天神ロイヤルガーデン管理組合の阿比留哲さんを招いて「被災したマンションからの教訓」と題して講演頂きました。サーパスⅡからの2名の参加者も含めて、およそ30名の方に参加して頂きました。

福岡県西方沖地震に被災した阿比留さんに、全く予期せず備えもしていなかったマンションでの被災時のパニック状況、半壊の診断を受けたマンションの復旧・復興工事への過程などを概ね以下のような内容でお話し頂きました。

嵐の海で船に乗った感じ

幸いにも、ケガ人はなかったが、発生被害状況としては、柱等が曲がったりした。特に、2階～7階に被害が集中して、外壁やタイルが崩れ落ち、廊下をつなぐ通路が壊れたり、玄関扉が変形したりして、開かなくなった部屋もあった。上層階では嵐の海の船に乗った感じで、大きな揺れで、バスルームの湯船のお湯が天井まで飛び上がったり、部屋の中の置物が飛んだり、落下したりして寝る事も出来なかった。慌てて玄関ピロティニーに集まった住人の中には、裸足の方も数人いた。

復興への道のり

●特別委員会「地震被害復興委員会」組織を緊急編成

1級建築士・弁護士・警察官・損保会社OB・大学教授など様々な個性を持つ一般より選出された復興委員22人と理事会の8人の30人で構成した委員会で知恵を出し合った。なお、1級建築士3名がマンションの被害調査に協力してくれた。

●コミュニティ作り

の被害が 出ました。	損壊が 八、四 七八棟	壊が二 四三棟	全壊が 一三二 棟、半	人が重 軽傷、 住宅の	人死亡 、一〇 六九	福岡県 内にお いて一	大震度 6弱の 地震で、	玄界灘 で発生 した最	〇日福 岡県北 西沖の	二〇〇 五年三 月二	福岡県 西方沖 地震とは
---------------	-------------------	------------	-------------------	-------------------	------------------	-------------------	--------------------	-------------------	-------------------	------------------	--------------------

みんなが同じ心になるために、会議は当初2ヶ月間連日連夜、管理組合の会議は全てオープンにして、見守る住民には情報の共有化をした。会議、新聞取材、報道機関に対応する広報担当を2名にして、連日の会合は住民に公開され内容は文書にして、全世帯に配られた。住民集会100回以上。配布文書は300種類以上にも上った。苦情・不安・部屋の状況を玄関にも掲示した。

●改修工事で重要な業者選定

事は急ぐということで、設計や構造に熟知している元々の請負業者に工事を依頼した。築7年で欠陥工事ではないかと言う話も出て、他のゼネコンに頼んではどうかの意見もあったが、地元業者でも有り、建物構造を熟知しており速やかに着工出来るということで依頼したら、業者は意気に感じて、社運をかけ、誠意をもって対応してくれた。販売業者や管理会社も相談窓口を設けてくれた。



被災時築7年（1998年完成）
15階建て
居住者108世帯 270人

●資金の調達

復興工事には、2億6千万円かかるとの見積りの中で、地震保険と修繕積立金で1億を調達し、残りは銀行から借りて10年で返済することとしている。被害にあった専用部分の改修費用は平均で200万円とのことだった。

●1年ぶりに完成

徹底的に補強改修するために、専有部分も全部検査した。被災者の財政的負担を軽減するためにも、在宅工事とした。原型復興ではなく、これをチャンスととらえて財産価値を高めるため、K型ブレースや耐震壁などを5ヶ所に設置し、今後震度7の地震にも耐えられる工事も併せて行った。

減災を目指して

「先手を打つ」

- 1) 自分達で出来る事は自分でやる。
- 2) 自分の住んでいる地理は事前に知っておく。(防災マップ)
- 3) コミュニティーを図りましょう。(住民趣味で交流 絵画、外国語、歩こう会)
- 4) 危険箇所が周辺に有れば防災マップに記入する。

「迎え撃つ」

- 5) 居住者・要援護者等台帳の整備。
- 6) 共助の関係（災害時における、隣・近所）
- 7) あらゆる地震の知識を知っておく。

●コミュニティの強化・維持

隣の住民の顔すら知らなかったが、震災復興の過程で、徐々にできていったコミュニティを

さらに強化し、維持していくことが必要だと感じた。

そのため、サークル活動などを奨励し、居住者同士の絆を深めることが大切。

● 共助の体制作り

自助、共助、とりわけ互いに助け合う共助はきわめて重要なテーマ。災害発生時に対処するため、居住者を予め二つに分け「助ける側」と「助けられる側」の態勢を決めておく。

連絡体制や居住者台帳、要援護者台帳の整備・保管をしている。

● 周辺の地理など内容を掌握

病院、クリニックなど医療機関や公園、広場、公民館、体育館といった施設、さらには小高い丘が周辺に何ヶ所あるのか知らない人の方が多い。外出からの帰宅コース上のこと、特に路上で発生したときどこに逃げ込んだらいいかなどは掌握しておくべき。

● 地震、減災の知識吸収

地震学者や対策専門家の話聞く機会があれば努めて出席を。

以上の取り組みが、減災を目指すための「先手を打つということと迎え撃つ」ということになるとの話は、経験者だからこそのお話として随分示唆に富んだもので、今後の自主防災会活動に役立つものとなりました。

確認の意味を込めて話し合いを

五一一号室 西村尚志さん

被災から復興まで阿比留さんの並々ならぬ熱意と努力には頭が下がる思いがしました。同じマンション暮らしという生活環境にある私たちにとってたいへん参考となる話を聞くことができたと思います。補強改修するため、専有部分も全部検査したり、被災者の財政的負担を軽減するため、在宅工事としたことなど、当マンションでそこまで出来るのかと考えさせられました。また、これだけの大きな地震でありながらケガ人がなかったことも驚きであります。南海地震はそう遠くないうちに発生するのは間違いのないと言われております。発生場所、規模、時間帯、本人が何処にいるのか、考えたら果てがありません。過度の心配や不安は日常生活に支障を及ぼすだけです。大事なものは、各家庭の身の丈にあった備え、知識、情報、廻りとのつながり、同じマンションに住むものとしての共通の認識などについて、もう一度確認の意味を込めて、話し合ってみることでないでしょうか。

いよいよ防災総合補助金の交付を概算払いで受けることができるようになりました。資機材の購入や防災マップ・携帯版防災対策マニュアルの作成に取りかかりますのでご協力をお願いします。

第4回昭和小地域防災訓練「あそぼうさい」に1000人が参加



運動場に集合した「避難」参加者の地域の皆さん

下知地域における防災訓練として定着し始めている第4回昭和小学校「あそぼうさい」が10月19日に開催されました。

毎年さまざまな工夫がされてメニューがどんどん盛りだくさんになっていますが、今年のメニューは「防災クイズ」「はしご車を見よう」「放水訓練」「震災写真パネル展示」「伝言ダイヤル・伝言板体験」「炊き出し訓練」「5年生による防災プロジェクト発表」「怪我の応急処置・手当法」「津波実験装置体験」「防災ずきん製作実演コーナー」「下知地区の浸水歴史パネル作成」「家屋の無料耐震診

断」「防災キャラクターショー」「防災迷路」「救助犬を使った被災者発見」「防災倉庫の備品展示」「防災グッズを見よう」「耐震性非常用貯水槽活用訓練」「消火器の使い方」「救命救助（AEDを含む）」「転倒防止コーナー設置」「学校内の海拔表示」「下知南地区津波防災検討会活動紹介」「防災スリッパづくり」「液状化現象」でした。

「防災体験学習参観日」に保護者がどっと

今年は例年と違って「防災体験学習参観日」と位置づけて取り組んだこともあって、普段よりも参加者の中に、小さいお子さん連れのお父さんの姿が多かったようでした。受付された参加者が360人を超え、知寄町2丁目から24人うちサーパスからは17人の方が参加されました。こどもを含めて、全体で約1000人近い参加となり、今までにない規模となりました。

当日の主な流れ

家庭からの避難開始	9時～
運動場への避難	9時30分
開会式	
防災訓練開始	10時～
防災訓練終了	12時

地域にとって「防災訓練の絶好の機会」

我がサーパス知寄町I自主防災会も協力団体として、実行委員会に参加しています。実行委員会の議論として、今後、地域がどう学校と関わるのかということが求められています。

学校の行事として、学校やPTAにお任せや期待ばかりするのではなく、地域が避難場所となる学校をお借りして、「防災訓練の絶好の機会」として、訓練をさせてもらっているんだから精一杯協力しようという関係が確立されることがのぞましいのではないのでしょうか。

訓練を通じて、地域の方と顔馴染みになりましょう。

次回役員会は11月15日（土）午後7時から行います。